

現況分析における顕著な変化に  
ついての説明書

教 育

平成22年6月

筑波大学

## 目 次

18. 図書館情報メディア研究科	1
------------------	---

## 現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 筑波大学

学部・研究科等名

図書館情報メディア研究科

## 1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

事例2 「円滑な学位取得のための指導体制の整備」

## 2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

教育の全般に渡る改革を目指す教育企画グループを平成 19 年度に研究科に設置した。当該グループにおいて、円滑な学位取得のための指導体制の整備のため、これまで主指導教員が把握していた大学院生の研究の進捗状況を組織的に把握して指導に反映させる事を目的とし、年度末に一年間の研究活動の総括、論文・学会発表等の状況、その他報告したい事を記入させる活動報告書(A4 用紙1枚)を大学院学務を經由して専攻長および研究科長に提出させることとした。これにより主・副指導教員だけでなく専攻長及び研究科長が大学院生の研究の進捗状況を確認できるようになり、状況に応じて指導教員への指導が行えるようになった。実際、年度末に研究科長が全ての教員と行う教員ヒアリングにおいて、この活動報告書をもとに大学院生の指導の状況を話し合っており、教員の指導に問題がないか確認できる様になった。また、論文・学会発表等の状況を年度毎に提出させることにより、大学院生の研究成果の把握を行うこともできるようになった。

博士前期課程について、入学者数に対する標準年内の修了率を見ると、平成 19 年度の 68%に対して、20 年度は 76%、21 年度は 77%に改善され、本取り組みが一定の成果をあげている。

さらに、平成 21 年度には、教育企画グループにおいて、この活動報告書をより丁寧な指導に役立てられるよう改訂案の検討が行われた。その結果、1学期は長期計画と論文・学会発表等の実績報告を、2・3学期は計画の達成状況と短期的計画及び論文・学会発表等の実績報告をそれぞれ作成して主指導教員と副指導教員に送付し、それに対して副指導教員がコメントを付けて学生と主指導教員、大学院学務に送付するというシステムを平成 22 年度から導入することとし、さらなる指導体制の整備を行う事とした。

以上の取り組みにより、平成 20 年度、21 年度において、「円滑な学位取得のための指導体制の整備」に係る成果に顕著な変化があったと判断する。